

1 単 元 「みんなでつくろう金さわ子どもまつり」

2 目 標

- (1) 季節や地域の行事に関わる活動をして自分たちの祭りを計画し、友だちと協力して準備したり、祭りを楽しんだりしようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 身のまわりにある材料などを用いて祭りに必要な物を作ったり、遊びを工夫したりすることができるとともに、祭りに対する願いや思い、楽しさや喜びなどを表現することができる。(思考・表現)
- (3) 祭りなどの地域の行事は生活に楽しさをもたらすとともに、人々の願いが込められている大切なものであることに気づくことができる。また、2年生としての自覚を持ち思いやりの心を持って1年生に接することの大切さに気づくことができる。(気付き)

3 単元について

本単元は、内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活が変わることに気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりする。」と(6)「身のまわりの自然を利用したり、身近にあるものを使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて設定した。直接体験を重視した学習活動を展開し、意欲的に学習や生活ができるようにという点と地域の環境や児童の実態に応じて創意工夫を生かした教育活動をするという点から、お祭りに参加する側から実際に自分たちでお祭りをを行う側で体験を考えることができる。また、いろいろな人を招待して祭りをを行うという学習活動を組み立てることで、身近な人に直接関わる活動や体験の中で生まれる知的な気づきの「出会い」を大切にすることをねらいとしている。

本学級の児童は37名である。1学期の「学区探検」の活動では、グループで協力して調べたり、絵地図にまとめたりすることができた。生活科やお祭りについてのアンケートの結果は、以下のようなものである。

(意識調査 男子17名 女子20名 合計37名) 9/6実施

- ・生活科の授業は好きですか。
大好き…29名 好き…6名 あまり好きではない…2名 嫌い…0名
- ・生活科の中でどんな活動が好きですか。(複数回答)
探検…33名 野菜の栽培・観察・収穫…14名 調べ学習…12名 まつり…35名
発表…8名 資料まとめ…13名 その他…2名
- ・「金さわ子どもまつり」は楽しみですか。 すごく楽しみ…30名 楽しみ…7名
- ・今までどんなお祭りに行きましたか。(複数回答)
金沢夏祭り…31名 多賀よかっぺまつり…10名
大みか祭り…7名 高萩祭り…2名 勝田祭り…3名 さくら祭り…10名
塙山さんさん祭り、ねぶた祭り、あんどんまつり、河原子花火大会など
- ・自分たちのまつりでは、どんなことがしたいですか。(複数回答)
ゲーム(金魚すくい、スーパーボールすくい、ボーリング、輪投げ、くじ)…25名
収穫した野菜を食べさせたい・収穫の喜びを伝えたい…23名 おみこし担ぎ…13名
自然を利用した遊び、わたあめ、花火、ダンス、店、招待状・ポスターづくり等

児童は生活科の活動を好んでいる。地域の祭りに参加し、出店や遊びコーナーで遊んだ体験から、お祭りに大変関心が高く、楽しみにしていることが分かる。

そこで、本単元では、自分たちの願いを込めた祭りを作り上げていく活動を通して、物を作る楽しさを感じ、1年生などを招待し共に遊べることの喜びを味わわせていきたい。特に、準備の段階では野菜の収穫の喜びを伝えるという目的を明確にし、児童の発想を大切に、できるだけ児童に任せることで自分たちの祭りを作り出していけるように助言していきたい。

4 指導計画(21時間取扱い) ○は本時

次	時	主な活動内容	評価規準	目標関連
1	1～4	・地域のお祭りの様子を話し合い、自分たちのお祭りの計画を立てる。	・自分たちの考えを出し合ってお祭りを作り上げようとしている	(1) (2)
2	5～14 本時は⑧	・祭りで必要な道具を協力して制作し、グループごとに発表や出店の準備をする。	・声を掛け合いながら協力して制作している。	(1) (2)
	15～16	・作ったものを使って、出店の練習をしたり見せ合ったりして修正する。	・自然や季節に関わる楽しみ方を工夫して発表や出店の準備をすることができる。	(2) (3)
	17～18	・お祭りの全体で必要なものを準備したり練習したりする。	・これまでの体験を生かし、協力してお祭りの企画・準備・運営等の仕方が分かる。	(1) (3)
3	19～21	・1年生を招待して、自分たちのお祭りを開き楽しむ。 ・これまでの活動を振り返る。	・協力して自分たちの力でお祭りを作り上げることができる。 ・季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わること気付いている。	(2) (3)

5 本時の指導

(1) 目標

- 計画に従って、友だちと協力しながら発表やお店の準備ができる。

(2) 準備・資料

各グループの設計図、グループごとに必要な材料、段ボールカッター、ボンド、など

(3) 展開

期待したい活動・発想・気付き ----- は教師の願い・支援 (○) 評価 (◎) 個への配慮 (●)

1 本時の目当てを確かめよう。

金さわ子どもまつりにひつようなものを、力を合わせてつくろう。

- グループで計画を立てた設計図をもとに、前の時間の続きを作っていくことを確認させ、活動意欲を持たせる。
- 活動意欲をそがないよう、導入の部分の説明はできるだけ短くし、すぐに活動に入れるようにする。
- 取り組みの遅い児童には、もう一度今日の活動内容を確認し、スムーズに活動に入れるよう声をかける。
- T2の教師は、主にO児やW児の支援にあたり、活動に集中できるよう声をかけたり、一緒に考えて作ったりする。

2 グループ分けが済み、集めた材料を使って発表やお店の準備が済む。

- ・つりざおにも磁石をつけないと。
- ・糸の長さはどれくらいがいいかな。
- ・自分たちが作った野菜の絵もいれよう。

- ・ピンに野菜の絵を描いたらどうかな。
- ・おもりを減らせば倒れやすくなるよ。
- ・距離は人によって変えた方が良いかな。

- つるものはたくさん用意し、グリップは必ずつけることを確認する。
- 大きさや重さに気をつけるようにアドバイスする。

- うまくピンが倒れない場合には、おもりの量やボールの大きさをかえてみるようにアドバイスする。

《まとあてグループ》

- ・まとはどんな形が良いかな。
- ・なかなか玉が飛ばないな。
- ・一人何回ずつにしようかな。

《くじグループ》

- ・くじ紬はどのようなしょうかな。
- ・野菜のけいひんも作ろうかな。
- ・あなはどの辺にあげよう。



- まとに玉がうまく当たらない場合には玉の大きさや形を工夫してみるようにアドバイスする。

- 小さい子でも届くような位置にあなをあげることができるよう、試しながら確認させる。

- 材料や色合いなどの組み合わせを考へうまく活用できるよう声をかける。

《アクセソリーグループ》

- ・色を考えよう
- ・どんぐりや木の葉も使えないかな。
- ・しっかりとれないようにつけよう。

- 1年生やお客さんを喜ばせてあげることを前提に、遊び道具の数や強度を考えて制作が進められるようにアドバイスする。

- 活動を支援するだけでなく、活動に満足している子どもの喜びに共感するようにする。

- 最初の計画にこだわらずに制作の途中でも新たなアイデアを取り入れながら活動を進めるようにする。

- 活動に取り組めないでいる児童に対しては、励ましの声をかけたり一緒に活動したりして、グループのみんなと仲良く取り組めるようにする。自分の制作が進んでいる児童には、グループの中で遅れがちな友だちを手助けするように助言する。

- ◎設計図を見ながら、友だちと協力してお祭りに使うものを作ることができたか。(観察)

3 本時の活動を振り返ろう。

- ・お客さんが喜んでくれるお店になっているかな。小さい子も楽しく遊んでくれるといいな。
- ・危なくないように作ることができたかな。
- ・協力して作ることができたよ。
- ・早くお祭りがしたいな。

- 自分なりに工夫しながら、意欲的に活動することができたか振り返らせる。

- 自分や友だちのがんばりや良さを知り、互いに認め合うことによって、次時の活動への意欲を高める。

4 後片付けをしよう。

- 協力して後片付けができるように声かけをしながら、教師も一緒に活動する。
- お祭りを楽しみにし、次回もがんばって制作しようと意欲を持たせるような言葉かけをする。

6 成果と課題

<成果>

- ・振り返りカードを使いながら学習を進めることによって、児童一人一人がその時間の活動を振り返ることが身についた。また、学習計画の確認や見直しをすることによって、その後の活動への意欲も高まった。
- ・出店の細かい内容を児童が話し合いながら決めて準備をしていくなかで、それぞれの得意なことでも力を発揮したり、友達を助けたりする姿が見られた。お互いのよいところを発見し、認め合うよい機会となった。
- ・毎時間の始めに、「来てくれた人が喜んでくれるようなおまつりにしよう。」ということを確認し、相手意識をもたせるようにした。「お店の人」と「お客さん」の役割でグループ内リハーサルを行い、実際の出店の場面で自分たちの活動内容を確認し、お祭りに参加する側から、実際に自分たちで行う側になって体験することができた。
- ・「楽しい活動」というのは「安全に、きまりを守って」の上に成り立つということを計画の段階から常に呼びかけた。児童が準備してきた物は教師がよく確認し、道具の取り扱いについても実際の使い方を見せながら指導をした。その結果、児童は安全に気をつけながら意欲的に活動することができた。
- ・1年生を招待することにより、交流を深めることができた。2年生としての自覚を持ち、思いやりの心をもって1年生に接することの大切さに気づくことができた。
- ・「金沢こどもまつり」を保護者に公開し、子どもたちの実際の活動の様子から子どもたちの成長を実感してもらうことができた。

<課題>

- ・お祭りでの出店を計画する段階での話し合い活動において、「児童の発想を大切に」ということを心がけて助言をするようにしてきたが、「やりたいこと」と「実際にできること」の違いに児童が気づくのが難しい場面があった。児童が構想を練り、計画を立てる段階での効果的な助言や援助についてさらに検討したい。
- ・「金沢こどもまつり」の学習において、楽しい中にも子ども一人一人の知的な気づきの質の高まりを追求していきたい。
- ・材料の準備については、保護者会等を通して理解と協力が得られるよう、さらに工夫したい。